

令和2年度に係る業務の実績に関する評価結果 国立大学法人群馬大学

1 全体評価

群馬大学は、北関東を代表する総合大学として、知の探求、伝承、実証の拠点として、次世代を担う豊かな教養と高度な専門性を持った人材を育成すること、先端的かつ世界水準の学術研究を推進すること、そして、これらを通して地域社会から世界にまで開かれた大学として国際社会に貢献することを基本理念に掲げている。第3期中期目標期間においては、基礎知識に裏打ちされた深い専門性を有し、地域社会での活動及び国際交流活動を積極的に推進できる人材を養成することや、多様な学術領域での独創的な研究を国内外の大学・研究機関と連携して進め、国際的な研究推進・人材育成のネットワークを構築し、研究拠点を形成すること等を目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、企業を巻き込んだ産学官協働形として、群馬大学と株式会社SUBARUとの共同研究講座「次世代自動車技術研究講座」を大学院理工学府内に設置するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、令和2年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 「海外ラボラトリー（カロリンスカ研究所）」の若手研究者について、カロリンスカ研究所医化学研究室とオンラインでの意見交換を重ね、メタボロミクス及び科学的分析に関する共同研究の成果をまとめ、令和2年度内に論文を発表し、その実験手法を生かし大手企業等とメタボロミクスの情報解析技術開発の共同研究を開始している。「海外ラボラトリー（ハーバード大・マサチューセッツ総合病院）」の若手研究者について、自閉症関連遺伝子のシナプス形成の制御に関する研究を展開させるため、実験手法や分析方法についてカナダのマニトバ大学と意見交換を行い、実験結果の共有を続けている。（ユニット「未来先端研究機構における世界水準の研究力の強化」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化		○				
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでおり一定の注目事項がある

(理由) 年度計画の記載10事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、令和元年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が実施されているほか、一定以上の注目すべき点があること等を総合的に勘案したことによる。

令和2年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ ダイバーシティ推進センターの取組

男女共同参画の推進はもとより、人種や国籍、障害の有無、性自認・性的指向、年齢、価値観等、より広い視点でのダイバーシティを積極的に推進し、全ての構成員がその能力を十分発揮できる環境作りへの更なる原動力となるよう男女共同参画推進室をダイバーシティ推進センターへと改組し、ダイバーシティ推進体制を強化している。また、群馬県において女性が政策・方針決定過程に参画し主導的立場を担っていくことにチャレンジすることを支援している団体として、群馬県知事表彰である「ぐんま輝く女性支援賞」を受賞するとともに、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が女性研究者の活躍を推進している機関を表彰する制度である、第2回「輝く女性研究者賞（ジュニアシダ賞）」における「輝く女性研究者活躍推進賞（機関受賞）」を受賞している。

○ 大型の共同研究講座の設置

新しく企業を巻き込んだ産学官協働形として、群馬大学と株式会社SUBARUとの共同研究講座「次世代自動車技術研究講座」を大学院理工学府内に設置し、スタートアップ企業や地域企業等の参画、他研究機関との連携も進め、学生・研究者・社会人の人材育成や社会貢献も含めた、群馬大学－SUBARU型の独自の産学連携プラットフォームを構

築している。さらに、これまで個々に進めていた共同研究を統括し、群馬大学が持つ理工系、医学系、保健学系、情報系の知のリソースを結集することで、群馬大学－SUBARU間で戦略的、包括的、組織的に株式会社SUBARUの研究課題を解決するための取組を進めるフレームワークも本講座が担っている。今後、講座を発展させるとともに他機関とも同種の講座を設置するなど、独自の産学連携プラットフォーム構築を計画している。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載7事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載4事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載13事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

令和2年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 地域との連携による教育課題への対応

小学校・中学校では校内授業研究会でICTを活用した授業作りを推進し、実践発表会等でその成果を広く周知し、モデル校としての役割を果たしている。特別支援学校では、公開研究会において、新学習指導要領を踏まえた授業を公開するとともに、学習評価に係るシンポジウムなどを開催している。また、学部教員や群馬県教育委員会と連携しながらこれまでの取組内容をまとめた「研究紀要」等を作成し、関係機関等に配付している。小学校では、「プログラミング教育実践事例集」を作成し、関係機関に配付するとともに、ウェブサイトにて公開している。また、中学校では「ICT活用実践事例集」を作成し、関係機関に配付するとともに、授業に活用できるよう、県内各中学校にはインターネット上でデータを提供している。

附属病院関係

(教育・研究面)

○ 地域医療研究・教育センターの取組

地域医療支援部門（地域医療支援センター）において、地域卒卒業生の卒前卒後の支援体制強化等に向けて、在学中は、各担当教授からの個別支援が受けられるチューター制度の強化を図り、卒業後は、所属先の指導医や事務担当者との連携を密にし、若手医師のキャリア形成の支援に努めるとともに、新たに、自治医科大学生・卒業生と群馬大学地域卒学生・卒業生に向けたウェブ形式の合同フォーラムを令和3年2月に開催している。

○ 新型コロナウイルス感染症に関する臨床研究

シーズの発掘に基づき、治験・臨床研究のメガホスピタルである前橋・高崎・渋川・深谷コア5治験・臨床研究病院において、新型コロナウイルス感染症治療薬に関する2件の特定臨床研究を開始している。

(診療面)

○ カルテに係る取組

多職種による入院診療録ピアレビューにおける医師の診療記録評価や診療情報管理士によるカルテ監査により診療記録の質の担保を図っている。また、インシデント報告に基づき、内服指示を紙での伝達から電子カルテによる指示出しに運用を変更するなど、インシデント報告の分析と現場のフィードバックを継続しており、全インシデント報告に占める医師の報告比率は15～20%を維持するなど、医療安全文化が醸成されている。

(運営面)

○ 群馬県のクラスター防止対策チーム「C-MAT」への参画

群馬県からのクラスター防止対策チーム「C-MAT」への派遣要請に応じて、感染症専門医や感染管理認定看護師、事務職員の他、必要に応じて災害派遣医療チーム(DMAT)の医師、看護師を加えたチームを派遣しており、令和2年11月から令和3年3月までに

10回出動するとともに、クラスター発生施設からの陽性患者等の搬送業務5件に対応している。